

# Rust プログラミング入門

酒井和哉著、2019 年 10 月発行、ISBN978-4-274-22435-5

## ダウンロードサービスファイル一覧

本書で解説する Rust ソースコードと作業ログは、オーム社のウェブページからダウンロードできます。以下に各ソースコード番号／ログ番号とファイル名の対応を示します。

なお、ソースコードとテキストファイル（ログ）の文字コードは UTF-8 です。改行コードは、Linux/macOS/UNIX で標準の LF を用いています。Windows 系のオペレーティングシステムでは、標準の改行コードが「CRLF」となっているので、ファイルを開く場合は適時、改行コードを変更してください。

## 第 2 章

第 2.3.1 項 ソースコード 2.1 Rust による Helloworld プログラム：`~/ohm/ch2/helloworld.rs`

第 2.3.2 項～第 2.3.3 項

ログ 2.9 ソースコードのコンパイルコマンド、ログ 2.10 プログラムの実行：`~/ohm/ch2/log_helloworld.txt` (このファイルのログは、2 つの項にまたがっています)

第 2.3.4 項 ソースコード 2.2 ソースコード内でのコメント：`~/ohm/ch2/comments.rs`

## 第 3 章

第 3.1.1 項 ソースコード 3.1 変数の宣言：`~/ohm/ch3-1/var.rs`

第 3.1.1 項 ログ 3.1 var.rs プログラムの実行：`~/ohm/ch3-1/log_var.txt`

第 3.1.2 項 ソースコード 3.2 可変変数の宣言：`~/ohm/ch3-1/mut.rs`

第 3.1.2 項 ログ 3.2 mut.rs プログラムの実行：`~/ohm/ch3-1/log_mut.txt`

第 3.1.3 項 ソースコード 3.3 定数の宣言：`~/ohm/ch3-1/const.rs`

第 3.1.3 項 ログ 3.3 const.rs プログラムの実行：`~/ohm/ch3-1/const.rs`

第 3.1.4 項 ソースコード 3.4 変数の四則演算：`~/ohm/ch3-1/arithmetic1.rs`

第 3.1.4 項 ログ 3.4 arithmetic1.rs プログラムの実行：`~/ohm/ch3-1/log_arithmetic1.txt`

第 3.1.4 項 ソースコード 3.5 複雑な式：`~/ohm/ch3-1/arithmetic2.rs`

第 3.1.4 項 ログ 3.5 arithmetic2.rs プログラムの実行：`~/ohm/ch3-1/log_arithmetic2.txt`

- 第 3.2.1 項 ソースコード 3.6 整数型:~/ohm/ch3-2/int.rs
- 第 3.2.1 項 ログ 3.6 int.rs プログラムの実行:~/ohm/ch3-2/log\_int.txt
- 第 3.2.1 項 ソースコード 3.7 整数型のリテラル:~/ohm/ch3-2/intliteral.rs
- 第 3.2.1 項 ログ 3.7 intelitaral.rs プログラムの実行:~/ohm/ch3-2/log\_intelitaral.txt
- 第 3.2.2 項 ソースコード 3.8 浮動小数点数型:~/ohm/ch3-2/fp.rs
- 第 3.2.2 項 ログ 3.8 fp.rs プログラムの実行:~/ohm/ch3-2/log\_fp.txt
- 第 3.2.3 項 ソースコード 3.9 ブール型:~/ohm/ch3-2/bool.rs
- 第 3.2.3 項 ログ 3.9 bool.rs プログラムの実行:~/ohm/ch3-2/log\_bool.txt
- 第 3.2.4 項 ソースコード 3.10 文字型:~/ohm/ch3-2/char.rs
- 第 3.2.4 項 ログ 3.10 char.rs プログラムの実行:~/ohm/ch3-2/log\_char.txt
- 第 3.2.5 項 ソースコード 3.11 タプル型:~/ohm/ch3-2/tuple.rs
- 第 3.2.5 項 ログ 3.11 tuple.rs プログラムの実行:~/ohm/ch3-2/log\_tuple.txt
- 第 3.3.1 項 ソースコード 3.12 if 分岐構造の例 その 1:~/ohm/ch3-3/if1.rs
- 第 3.3.1 項 ログ 3.12 if1.rs プログラムの実行:~/ohm/ch3-3/log\_if1.txt
- 第 3.3.1 項 ソースコード 3.13 if 分岐構造の例 その 2:~/ohm/ch3-3/if2.rs
- 第 3.3.1 項 ログ 3.13 if2.rs プログラムの実行:~/ohm/ch3-3/log\_if2.txt
- 第 3.3.2 項 ソースコード 3.14 if-else 分岐構造:~/ohm/ch3-3/if-else.rs
- 第 3.3.2 項 ログ 3.14 if-else.rs プログラムの実行:~/ohm/ch3-3/log\_if-else.txt
- 第 3.3.3 項 ソースコード 3.15 if-elseif-else 分岐構造:~/ohm/ch3-3/if-elseif-else.rs
- 第 3.3.3 項 ログ 3.15 if-elseif-else.rs プログラムの実行:~/ohm/ch3-3/log\_if-elseif-else.txt
- 第 3.4.1 項 ソースコード 3.16 for ループ その 1:~/ohm/ch3-4/for1.rs
- 第 3.4.1 項 ログ 3.16 for1.rs プログラムの実行:~/ohm/ch3-4/log\_for1.txt
- 第 3.4.2 項 ソースコード 3.17 for ループ その 2:~/ohm/ch3-4/for2.rs
- 第 3.4.2 項 ログ 3.17 for2.rs プログラムの実行:~/ohm/ch3-4/log\_for2.txt
- 第 3.4.3 項 ソースコード 3.18 while ループ:~/ohm/ch3-4/while.rs
- 第 3.4.3 項 ログ 3.18 while.rs プログラムの実行:~/ohm/ch3-4/log\_while.txt
- 第 3.4.4 項 ソースコード 3.19 loop ループ:~/ohm/ch3-4/loop.rs
- 第 3.4.4 項 ログ 3.19 loop.rs プログラムの実行:~/ohm/ch3-4/log\_loop.txt
- 第 3.5.1 項 ソースコード 3.20 関数の定義:~/ohm/ch3-5/func.rs
- 第 3.5.1 項 ログ 3.20 func.rs プログラムの実行:~/ohm/ch3-5/log\_func.txt
- 第 3.5.2 項 ソースコード 3.21 引数の設定:~/ohm/ch3-5/arg.rs
- 第 3.5.2 項 ログ 3.21 arg.rs プログラムの実行:~/ohm/ch3-5/log\_arg.txt
- 第 3.5.3 項 ソースコード 3.22 戻り値の例 その 1:~/ohm/ch3-5/return1.rs

- 第 3.5.3 項 ログ 3.22 return1.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch3-5/log_return1.txt`
- 第 3.5.3 項 ソースコード 3.23 戻り値の例 その 2: `~/ohm/ch3-5/return2.rs`
- 第 3.5.3 項 ログ 3.23 return2.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch3-5/log_return2.txt`
- 第 3.5.3 項 ソースコード 3.24 戻り値の例 その 3: `~/ohm/ch3-5/return3.rs`
- 第 3.5.3 項 ログ 3.24 return3.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch3-5/log_return3.txt`
- 第 3.5.4 項 ソースコード 3.25 階乗の計算: `~/ohm/ch3-5/factorial.rs`
- 第 3.5.4 項 ログ 3.25 factorial.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch3-5/log_factorial.txt`
- 第 3.6.1 項 ソースコード 3.26 変数のスコープの例 その 1: `~/ohm/ch3-6/scope1.rs`
- 第 3.6.1 項 (参考) scope1.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch3-6/log_scope1.txt`
- 第 3.6.1 項 ソースコード 3.27 変数のスコープの例 その 2: `~/ohm/ch3-6/scope2.rs`
- 第 3.6.1 項 (参考) scope2.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch3-6/log_scope2.txt`
- 第 3.6.1 項 ソースコード 3.28 変数のスコープの例 その 3: `~/ohm/ch3-6/scope3.rs`
- 第 3.6.1 項 (参考) scope3.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch3-6/log_scope3.txt`
- 第 3.6.1 項 ソースコード 3.29 変数のスコープの悪い例: `~/ohm/ch3-6/badscope.rs`
- 第 3.6.1 項 ログ 3.26 badscope.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch3-6/log_badscope.txt`
- 第 3.6.2 項 ソースコード 3.30 静的変数: `~/ohm/ch3-6/staticvar1.rs`
- 第 3.6.2 項 ログ 3.27 staticvar1.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch3-6/log_staticvar1.txt`
- 第 3.6.3 項 ソースコード 3.31 静的可変変数: `~/ohm/ch3-6/staticvar2.rs`
- 第 3.6.3 項 ログ 3.28 staticvar2.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch3-6/log_staticvar2.txt`
- 第 3.7.1 項 ソースコード 3.32 マクロの例: `~/ohm/ch3-7/macro.rs`
- 第 3.7.1 項 ログ 3.29 macro.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch3-7/log_macro.txt`
- 第 3.8.1 項 ソースコード 3.33 println! マクロの使い方の例 その 1: `~/ohm/ch3-8/printlnmacro1.rs`
- 第 3.8.1 項 ログ 3.30 printlnmacro1.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch3-8/log_printlnmacro1.txt`
- 第 3.8.2 項 ソースコード 3.34 println! マクロの使い方の例 その 2: `~/ohm/ch3-8/printlnmacro2.rs`
- 第 3.8.2 項 ログ 3.31 printlnmacro2.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch3-8/log_printlnmacro2.txt`
- 第 3.8.3 項 ソースコード 3.35 i8 型の静的メソッド: `~/ohm/ch3-8/minmax.rs`
- 第 3.8.3 項 ログ 3.32 minmax.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch3-8/log_minmax.txt`
- 第 3.8.3 項 ソースコード 3.36 i8 型のメソッド: `~/ohm/ch3-8/introtate.rs`
- 第 3.8.3 項 ログ 3.33 introtate.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch3-8/log_introtate.txt`

## 第 4 章

---

- 第 4.2.2 項    ソースコード 4.1 生ポインタ : `~/ohm/ch4-2/rawptr1.rs`
- 第 4.2.2 項    ログ 4.1 rawptr1.rs プログラムの実行 : `~/ohm/ch4-2/log_rawptr1.txt`
- 第 4.2.3 項    ソースコード 4.2 生ポインタと可変変数 : `~/ohm/ch4-2/rawptr2.rs`
- 第 4.2.3 項    ログ 4.2 rawptr2.rs プログラムの実行 : `~/ohm/ch4-2/log_rawptr2.txt`
- 第 4.2.4 項    ソースコード 4.3 可変ポインタの使用例 : `~/ohm/ch4-2/mutrawptr.rs`
- 第 4.2.4 項    ログ 4.3 mutrawptr.rs プログラムの実行 : `~/ohm/ch4-2/log_mutrawptr.txt`
- 第 4.2.5 項    ソースコード 4.4 Box 型 : `~/ohm/ch4-2/box.rs`
- 第 4.2.5 項    ログ 4.4 box.rs プログラムの実行 : `~/ohm/ch4-2/log_box.txt`
- 第 4.2.6 項    ソースコード 4.5 str 型の基本 : `~/ohm/ch4-2/str.rs`
- 第 4.2.6 項    ログ 4.5 str.rs プログラムの実行 : `~/ohm/ch4-2/log_str.txt`
- 第 4.2.6 項    ソースコード 4.6 文字コードとマルチバイト文字 : `~/ohm/ch4-2/strcode.rs`
- 第 4.2.6 項    ログ 4.6 strcode.rs プログラムの実行 : `~/ohm/ch4-2/log_strcode.txt`
- 第 4.3.1 項    ソースコード 4.7 配列の基本 : `~/ohm/ch4-3/array1.rs`
- 第 4.3.1 項    ログ 4.7 array1.rs プログラムの実行 : `~/ohm/ch4-3/log_array1.txt`
- 第 4.3.2 項    ソースコード 4.8 配列の型と大きさ : `~/ohm/ch4-3/array2.rs`
- 第 4.3.2 項    ログ 4.8 array2.rs プログラムの実行 : `~/ohm/ch4-3/log_array2.txt`
- 第 4.3.3 項    ソースコード 4.9 配列の初期化 : `~/ohm/ch4-3/array3.rs`
- 第 4.3.3 項    ログ 4.9 array3.rs プログラムの実行 : `~/ohm/ch4-3/log_array2.txt`
- 第 4.3.4 項    ソースコード 4.10 2 次元配列 : `~/ohm/ch4-3/array4.rs`
- 第 4.3.4 項    ログ 4.10 array4.rs プログラムの実行 : `~/ohm/ch4-3/log_array4.txt`
- 第 4.3.5 項    ソースコード 4.11 配列と文字列 : `~/ohm/ch4-3/array5.rs`
- 第 4.3.5 項    ログ 4.11 array5.rs プログラムの実行 : `~/ohm/ch4-3/log_array5.txt`
- 第 4.4.1 項    ソースコード 4.12 構造体の例 : `~/ohm/ch4-4/struct.rs`
- 第 4.4.1 項    ログ 4.12 struct.rs プログラムの実行 : `~/ohm/ch4-4/log_struct.txt`
- 第 4.4.2 項    ソースコード 4.13 メソッドの実装 : `~/ohm/ch4-4/impl.rs`
- 第 4.4.2 項    ログ 4.13 impl.rs プログラムの実行 : `~/ohm/ch4-4/log_impl.txt`
- 第 4.4.3 項    ソースコード 4.14 静的メソッドの実装 : `~/ohm/ch4-4/staticmethod.rs`
- 第 4.4.3 項    ログ 4.14 staticmethod.rs プログラムの実行 : `~/ohm/ch4-4/log_staticmethod.txt`
- 第 4.5.1 項    ソースコード 4.15 ベクタ型の基本 : `~/ohm/ch4-5/vec1.rs`
- 第 4.5.1 項    ログ 4.15 vec1.rs プログラムの実行 : `~/ohm/ch4-5/log_vec1.txt`
- 第 4.5.2 項    ソースコード 4.16 ベクタ型用のマクロ : `~/ohm/ch4-5/vecmacro.rs`
- 第 4.5.2 項    ログ 4.16 vecmacro.rs プログラムの実行 : `~/ohm/ch4-5/log_vecmacro.txt`

- 第 4.6.1 項 ソースコード 4.17 String 型の基本:~/ohm/ch4-6/string1.rs
- 第 4.6.1 項 ログ 4.17 string1.rs プログラムの実行:~/ohm/ch4-6/log\_string1.txt
- 第 4.6.2 項 ソースコード 4.18 文字列の結合:~/ohm/ch4-6/string2.rs
- 第 4.6.2 項 ログ 4.18 string2.rs プログラムの実行:~/ohm/ch4-6/log\_string2.txt
- 第 4.7.1 項 ソースコード 4.19 配列とスライス:~/ohm/ch4-7/slice1.rs
- 第 4.7.1 項 ログ 4.19 slice1.rs プログラムの実行:~/ohm/ch4-7/log\_slice1.txt
- 第 4.7.2 項 ソースコード 4.20 String 型に対するスライス:~/ohm/ch4-7/slice2.rs
- 第 4.7.2 項 ログ 4.20 slice2.rs プログラムの実行:~/ohm/ch4-7/log\_slice2.txt
- 第 4.7.2 項 ソースコード 4.21 マルチバイト文字を含む String オブジェクトのスライス:~/ohm/ch4-7/slice3.rs
- 第 4.7.2 項 ログ 4.21 slice3.rs プログラムの実行:~/ohm/ch4-7/log\_slice3.txt

## 第 5 章

- 第 5.1.1 項 ソースコード 5.1 ダングリングポインタの例:~/ohm/ch5-1/danglingptr.c
- 第 5.1.1 項 (参考) danglingptr.c プログラムの実行:~/ohm/ch5-1/log\_C\_danglingptr.txt
- 第 5.1.1 項 (参考) danglingptr.rs のコンパイル:~/ohm/ch5-1/danglingptr.rs
- 第 5.1.2 項 ソースコード 5.2 メモリの多重解放の例:~/ohm/ch5-1/multfree.c
- 第 5.1.2 項 (参考) multfree.c プログラムの実行:~/ohm/ch5-1/log\_C\_multifree.txt
- 第 5.1.3 項 ソースコード 5.3 初期化されていないメモリへのアクセス例:~/ohm/ch5-1/uninitialized.c
- 第 5.1.3 項 (参考) uninitialized.c プログラムの実行:~/ohm/ch5-1/log\_C\_uninitialized.txt
- 第 5.2.1 項 ソースコード 5.4 所有の概念:~/ohm/ch5-2/own.rs
- 第 5.2.1 項 ログ 5.1 own.rs プログラムの実行:~/ohm/ch5-2/log\_own.txt
- 第 5.2.2 項 ソースコード 5.5 ドロップ:~/ohm/ch5-2/drop.rs
- 第 5.2.2 項 ログ 5.2 drop.rs プログラムの実行:~/ohm/ch5-2/log\_drop.txt
- 第 5.2.3 項 ソースコード 5.6 所有構造の例:~/ohm/ch5-2/objstructure.rs
- 第 5.2.3 項 ログ 5.3 objstructure.rs プログラムの実行:~/ohm/ch5-2/log\_objstructure.txt
- 第 5.2.4 項 ソースコード 5.7 複雑な所有構造の例:~/ohm/ch5-2/objtree.rs
- 第 5.2.4 項 ログ 5.4 objtree.rs プログラムの実行:~/ohm/ch5-2/log\_objtree.txt
- 第 5.3.2 項 ソースコード 5.8 移動 その 1:~/ohm/ch5-3/move1.rs
- 第 5.3.2 項 ログ 5.5 move1.rs プログラムの実行:~/ohm/ch5-3/log\_move1.txt
- 第 5.3.3 項 ソースコード 5.9 移動の悪い例 その 1:~/ohm/ch5-3/move1\_bad.rs

- 第 5.3.3 項 ログ 5.6 move1\_bad.rs のコンパイル: `~/ohm/ch5-3/log_move1_bad.txt`
- 第 5.3.4 項 ソースコード 5.10 移動 その 2: `~/ohm/ch5-3/move2.rs`
- 第 5.3.4 項 ログ 5.7 move2.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch5-3/log_move2.txt`
- 第 5.3.5 項 ソースコード 5.11 移動の悪い例 その 2: `~/ohm/ch5-3/move2_bad.rs`
- 第 5.3.5 項 (参考) move2\_bad.rs のコンパイル: `~/ohm/ch5-3/log_move2_bad.txt`
- 第 5.3.7 項 ソースコード 5.12 値のコピー: `~/ohm/ch5-3/copy1.rs`
- 第 5.3.7 項 ログ 5.8 copy1.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch5-3/log_copy1.txt`
- 第 5.4.1 項 ソースコード 5.13 借用の概念: `~/ohm/ch5-4/borrow1.rs`
- 第 5.4.1 項 ログ 5.9 borrow1.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch5-4/log_borrow1.txt`
- 第 5.4.2 項 ソースコード 5.14 借用の代わりに移動した場合: `~/ohm/ch5-4/borrow1_bad.rs`
- 第 5.4.2 項 (参考) borrow1\_bad.rs のコンパイル: `~/ohm/ch5-4/log_borrow1_bad.txt`
- 第 5.4.3 項 ソースコード 5.15 借用の例: `~/ohm/ch5-4/borrow2.rs`
- 第 5.4.3 項 ログ 5.10 borrow2.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch5-4/log_borrow2.txt`
- 第 5.4.4 項 ソースコード 5.16 借用の悪い例: `~/ohm/ch5-4/borrow2_bad.rs`
- 第 5.4.4 項 ログ 5.11 borrow2\_bad.rs のコンパイル: `~/ohm/ch5-4/log_borrow2_bad.txt`
- 第 5.4.5 項 ソースコード 5.17 所有権を移動したときのオブジェクトのドロップ: `~/ohm/ch5-4/move_and_drop.rs`
- 第 5.4.5 項 ログ 5.12 move\_and\_drop.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch5-4/log_move_and_drop.txt`
- 第 5.4.6 項 ソースコード 5.18 借用したときのオブジェクトのドロップ: `~/ohm/ch5-4/borrow_and_drop.rs`
- 第 5.4.6 項 ログ 5.13 borrow\_and\_drop.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch5-4/log_borrow_and_drop.txt`
- 第 5.5.1 項 ソースコード 5.19 可変参照の借用: `~/ohm/ch5-5/mutref1.rs`
- 第 5.5.1 項 ログ 5.14 mutref1.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch5-5/log_mutref1.txt`
- 第 5.5.2 項 ソースコード 5.20 フィボナッチ数列の計算: `~/ohm/ch5-5/mutref2.rs`
- 第 5.5.2 項 ログ 5.15 mutref2.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch5-5/log_mutref2.txt`
- 第 5.5.3 項 ソースコード 5.21 プリミティブ型の可変参照の借用: `~/ohm/ch5-5/primitive_mutref.rs`
- 第 5.5.3 項 ログ 5.16 primitive\_mutref.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch5-5/log_primitive_mutref.txt`
- 第 5.5.4 項 ソースコード 5.22 挿入ソート: `~/ohm/ch5-5/insertion.rs`
- 第 5.5.4 項 ログ 5.17 insertion.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch5-5/log_insertion.txt`

- 第 5.6.1 項 ソースコード 5.23 参照の借用の悪い例：`~/ohm/ch5-6/lifetime1_bad.rs`
- 第 5.6.1 項 ログ 5.18 `lifetime1_bad.rs` のコンパイル：`~/ohm/ch5-6/log_lifetime1_bad.txt`
- 第 5.6.1 項 ソースコード 5.24 ソースコード 5.23 を修正したプログラム：`~/ohm/ch5-6/lifetime1.rs`
- 第 5.6.1 項 (参考) `lifetime1.rs` プログラムの実行：`~/ohm/ch5-6/log_lifetime1.txt`
- 第 5.6.1 項 ソースコード 5.25 参照の借用と戻り値：`~/ohm/ch5-6/lifetimefunc_bad.rs`
- 第 5.6.1 項 ログ 5.19 `lifetimefunc_bad.rs` のコンパイル：`~/ohm/ch5-6/log_lifetimefunc_bad.txt`
- 第 5.6.1 項 ソースコード 5.26 生存期間：`~/ohm/ch5-6/lifetimefunc.rs`
- 第 5.6.1 項 ログ 5.20 `lifetimefunc.rs` プログラムの実行：`~/ohm/ch5-6/log_lifetimefunc.txt`
- 第 5.6.2 項 ソースコード 5.27 構造体メンバの生存期間の悪い例：`~/ohm/ch5-6/lifetimestruct1_bad.rs`
- 第 5.6.2 項 ログ 5.21 `lifetimestruct1_bad.rs` のコンパイル：`~/ohm/ch5-6/log_lifetimestruct1_bad.txt`
- 第 5.6.2 項 ソースコード 5.28 構造体メンバの生存期間 その 1：`~/ohm/ch5-6/lifetimestruct1.rs`
- 第 5.6.2 項 ログ 5.22 `lifetimestruct1.rs` プログラムの実行：`~/ohm/ch5-6/log_lifetimestruct1.txt`
- 第 5.6.3 項 ソースコード 5.29 構造体メンバの生存期間 その 2：`~/ohm/ch5-6/lifetimestruct2.rs`
- 第 5.6.3 項 ログ 5.23 `lifetimestruct2.rs` プログラムの実行：`~/ohm/ch5-6/log_lifetimestruct2.txt`
- 第 5.6.4 項 ソースコード 5.30 ポインタ型の静的変数：`~/ohm/ch5-6/lifetimestatic_bad.rs`
- 第 5.6.4 項 ログ 5.24 `lifetimestatic_bad.rs` のコンパイル：`~/ohm/ch5-6/log_lifetimestatic_bad.txt`
- 第 5.6.4 項 ソースコード 5.31 `static` な生存期間パラメータ：`~/ohm/ch5-6/lifetimestatic.rs`
- 第 5.6.4 項 ログ 5.25 `lifetimestatic.rs` プログラムの実行：`~/ohm/ch5-6/log_lifetimestatic.txt`

## 第 6 章

- 第 6.1.1 項 ソースコード 6.1 数値のキャスト：`~/ohm/ch6-1/cast.rs`
- 第 6.1.1 項 ログ 6.1 `cast.rs` プログラムの実行：`~/ohm/ch6-1/log_cast.txt`
- 第 6.1.1 項 (参考) `cast.rs` をキャストしない場合のコンパイル：`~/ohm/ch6-1/cast_bad.rs`

- 第 6.1.1 項 ログ 6.2 キャストしない場合のコンパイル: `~/ohm/ch6-1/log_cast_bad.txt`
- 第 6.1.2 項 ソースコード 6.2 数値から文字列へキャスト: `~/ohm/ch6-1/numtostr.rs`
- 第 6.1.2 項 ログ 6.3 numtostr.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch6-1/log_numtostr.txt`
- 第 6.1.3 項 ソースコード 6.3 文字列から数値へキャスト: `~/ohm/ch6-1/strtonum.rs`
- 第 6.1.3 項 ログ 6.4 strtonum.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch6-1/log_strtonum.txt`
- 第 6.2.1 項 ソースコード 6.4 標準入力の基本: `~/ohm/ch6-2/stdio1.rs`
- 第 6.2.1 項 ログ 6.5 stdio1.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch6-2/log_stdio1.txt`
- 第 6.2.2 項 ソースコード 6.5 入力した文字列の解析: `~/ohm/ch6-2/stdio2.rs`
- 第 6.2.2 項 ログ 6.6 stdio2.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch6-2/log_stdio2.txt`
- 第 6.2.3 項 ソースコード 6.6 コマンドライン引数の取得: `~/ohm/ch6-2/mainarg1.rs`
- 第 6.2.3 項 ログ 6.7 mainarg1.rs プログラムの実行 その 1: `~/ohm/ch6-2/log_mainarg1_1.txt`
- 第 6.2.3 項 ログ 6.8 mainarg1.rs プログラムの実行 その 2: `~/ohm/ch6-2/log_mainarg1_2.txt`
- 第 6.2.3 項 ログ 6.9 mainarg1.rs プログラムの実行 その 3: `~/ohm/ch6-2/log_mainarg1_3.txt`
- 第 6.2.3 項 ソースコード 6.7 コマンドライン引数の解析: `~/ohm/ch6-2/mainarg2.rs`
- 第 6.2.3 項 ログ 6.10 mainarg2.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch6-2/log_mainarg2.txt`
- 第 6.3.1 項 ソースコード 6.8 ファイル入力の基本: `~/ohm/ch6-3/input1.rs`
- 第 6.3.1 項 ログ 6.11 input1.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch6-3/log_input1.txt`
- 第 6.3.1 項 ログ 6.12 存在しないファイルへのアクセス: `~/ohm/ch6-3/log_input1_bad.txt`
- 第 6.3.1 項 (参考) input1.rs 実行時の入力ファイル: `~/ohm/ch6-3/input1.txt`
- 第 6.3.2 項 ソースコード 6.9 ファイル出力の基本: `~/ohm/ch6-3/output1.rs`
- 第 6.3.2 項 ログ 6.13 output1.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch6-3/log_output1.txt`
- 第 6.3.2 項 (参考) output1.rs 実行時の出力ファイル: `~/ohm/ch6-3/output1.txt`
- 第 6.3.3 項 ソースコード 6.10 パッファありファイル入力: `~/ohm/ch6-3/input2.rs`
- 第 6.3.3 項 ログ 6.14 input2.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch6-3/log_input2.txt`
- 第 6.3.3 項 (参考) input2.rs 実行時の入力ファイル: `~/ohm/ch6-3/input2.txt`
- 第 6.3.4 項 ソースコード 6.11 パッファありファイル出力: `~/ohm/ch6-3/output2.rs`
- 第 6.3.4 項 ログ 6.15 output2.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch6-3/log_output2.txt`
- 第 6.3.4 項 (参考) output2.rs 実行時の出力ファイル: `~/ohm/ch6-3/output2.txt`
- 第 6.3.5 項 ソースコード 6.12 ファイルへのアペンド: `~/ohm/ch6-3/append.rs`
- 第 6.3.5 項 ログ 6.16 append.rs プログラムの実行: `~/ohm/ch6-3/log_append.txt`



- 第 6.3.5 項 ログ 6.17 `append.txt` の内容: `~/ohm/ch6-3/append.txt`
- 第 6.4.1 項 ソースコード 6.13 条件分岐と変数の初期化: `~/ohm/ch6-4/ifstmt.rs`
- 第 6.4.1 項 ログ 6.18 `ifstmt.rs` プログラムの実行: `~/ohm/ch6-4/log_ifstmt.txt`
- 第 6.4.2 項 ソースコード 6.14 `if` 式を用いた変数の初期化: `~/ohm/ch6-4/ifexpr.rs`
- 第 6.4.2 項 ログ 6.19 `ifexpr.rs` プログラムの実行: `~/ohm/ch6-4/log_ifexpr.txt`
- 第 6.4.3 項 ソースコード 6.15 ブロックによる値の生成: `~/ohm/ch6-4/blockexpr.rs`
- 第 6.4.3 項 ログ 6.20 `blockexpr.rs` プログラムの実行: `~/ohm/ch6-4/log_blockexpr.txt`
- 第 6.4.4 項 ソースコード 6.16 パターンマッチングの基本: `~/ohm/ch6-4/match1.rs`
- 第 6.4.4 項 ログ 6.21 `match1.rs` プログラムの実行: `~/ohm/ch6-4/log_match1.txt`
- 第 6.4.5 項 ソースコード 6.17 マッチ式を用いた変数の初期化: `~/ohm/ch6-4/match2.rs`
- 第 6.4.5 項 ログ 6.22 `match2.rs` プログラムの実行: `~/ohm/ch6-4/log_match2.txt`
- 第 6.4.6 項 ソースコード 6.18 マッチ式を用いたエラーハンドリング: `~/ohm/ch6-4/ioerror.rs`
- 第 6.4.6 項 ログ 6.23 `ioerror.rs` プログラムの実行: `~/ohm/ch6-4/log_ioerror.txt`
- 第 6.4.7 項 ソースコード 6.19 `if-let` 式の例: `~/ohm/ch6-4/iflet1.rs`
- 第 6.4.7 項 ログ 6.24 `iflet1.rs` プログラムの実行: `~/ohm/ch6-4/log_iflet1.txt`
- 第 6.4.8 項 ソースコード 6.20 `if-let` 式による変数の初期化: `~/ohm/ch6-4/iflet2.rs`
- 第 6.4.8 項 ログ 6.25 `iflet2.rs` プログラムの実行: `~/ohm/ch6-4/log_iflet2.txt`
- 第 6.5.1 項 ソースコード 6.21 トレイトの定義: `~/ohm/ch6-5/trait1.rs`
- 第 6.5.1 項 ログ 6.26 `trait1.rs` プログラムの実行: `~/ohm/ch6-5/log_trait1.txt`
- 第 6.5.2 項 ソースコード 6.22 既存のトレイトの適用: `~/ohm/ch6-5/trait2.rs`
- 第 6.5.2 項 ログ 6.27 `trait2.rs` プログラムの実行: `~/ohm/ch6-5/log_trait2.txt`
- 第 6.5.3 項 ソースコード 6.23 トレイトを既存の型に適用: `~/ohm/ch6-5/trait3.rs`
- 第 6.5.3 項 ログ 6.28 `trait3.rs` プログラムの実行: `~/ohm/ch6-5/log_trait3.txt`
- 第 6.5.4 項 ソースコード 6.24 サブトレイト: `~/ohm/ch6-5/subtrait.rs`
- 第 6.5.4 項 ログ 6.29 `subtrait.rs` プログラムの実行: `~/ohm/ch6-5/log_subtrait.txt`
- 第 6.5.5 項 ソースコード 6.25 デフォルトメソッド: `~/ohm/ch6-5/defaultmethod.rs`
- 第 6.5.5 項 ログ 6.30 `defaultmethod.rs` プログラムの実行: `~/ohm/ch6-5/log_defaultmethod.txt`
- 第 6.6.1 項 ソースコード 6.26 トランプのスートを列挙型で定義: `~/ohm/ch6-6/enum1.rs`
- 第 6.6.1 項 ログ 6.31 `enum1.rs` プログラムの実行: `~/ohm/ch6-6/log_enum1.txt`
- 第 6.6.2 項 ソースコード 6.27 名前付き定数と整数値の関連付け: `~/ohm/ch6-6/enum2.rs`
- 第 6.6.2 項 ログ 6.32 `enum2.rs` プログラムの実行: `~/ohm/ch6-6/log_enum2.txt`

- 第 6.7.1 項    ソースコード 6.28 ジェネリクスの基本:~/ohm/ch6-7/generics.rs
- 第 6.7.1 項    ログ 6.33 generics.rs プログラムの実行:~/ohm/ch6-7/log\_generics.txt
- 第 6.7.2 項    ソースコード 6.29 ジェネリック関数 (比較可能な型):~/ohm/ch6-7/genfunc1.rs
- 第 6.7.2 項    ログ 6.34 genfunc1.rs プログラムの実行:~/ohm/ch6-7/log\_genfunc1.txt
- 第 6.7.3 項    ソースコード 6.30 ジェネリック関数 (乗算可能な型):~/ohm/ch6-7/genfunc2.rs
- 第 6.7.3 項    ログ 6.35 genfunc2.rs プログラムの実行:~/ohm/ch6-7/log\_genfunc2.txt
- 第 6.7.4 項    ソースコード 6.31 ジェネリック関数 (コピー可能な型):~/ohm/ch6-7/genfunc3.rs
- 第 6.7.4 項    ログ 6.36 genfunc3.rs プログラムの実行:~/ohm/ch6-7/log\_genfunc3.txt
- 第 6.7.5 項    ソースコード 6.32 ジェネリック構造体:~/ohm/ch6-7/genstruct1.rs
- 第 6.7.5 項    ログ 6.37 genstruct1.rs プログラムの実行:~/ohm/ch6-7/log\_genstruct1.txt
- 第 6.7.6 項    ソースコード 6.33 複数のジェネリック型を定義:~/ohm/ch6-7/genstruct2.rs
- 第 6.7.6 項    ログ 6.38 genstruct2.rs プログラムの実行:~/ohm/ch6-7/log\_genstruct2.txt
- 第 6.7.7 項    ソースコード 6.34 ジェネリックメソッド:~/ohm/ch6-7/genstruct3.rs
- 第 6.7.7 項    ログ 6.39 genstruct3.rs プログラムの実行:~/ohm/ch6-7/log\_genstruct3.txt

© 酒井和哉 2019